

## 式 辞

校庭の梅の花も満開の、今日の良き日に我孫子二階堂高等学校、第四十六期卒業生として、本校を巣立つ皆さん、卒業、おめでとうございます。

今日の日を待ち望んで来られた保護者の皆様、誠におめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

また、本日、ここに卒業証書授与式を挙げるにあたり、ご多用のところ、ご来賓の皆様のご臨席を賜りましたことを感謝し、厚く御礼を申し上げます。

さて、卒業生の皆さん。三年前、入学式で、私は皆さんに、「優しさ」の「優」という漢字は「にんべん」に「憂い」と書く、「優しい人」とは、嫌な事、困ったこと、悲しい事など、憂いを持った人の横に立ち、寄り添う人の事を言う。「優しい」という漢字は「優れた」とも読む。「優しい人」は「優れた人」優れた人は「善い人」、「人の役に立てる人」。人は他人を喜ばせることで、役に立てた時、感謝され、評価され、自分も喜びを感じることができ、自信も生まれてくる。人の役に立つための勤労を喜び、人としての礼節を学び、自分を支えてくれている人への感謝を忘れない「善い人」になろうと話しました。

あれから本校での三年間の高校生活。皆さんはいろいろなことを経験し、成長してきました。これからは、これまでに学んだ、基礎・基本の学力、人間関係の在り方等を基に、激しく変化する社会の中で、一人ひとりが、対応することのできる力を学んでいかなければなりません。

社会ではリーダーシップを発揮する人間のみが必要とは捉えていません。リーダーシップを発揮する為には、その人を支える「フォロワー」の存在が不可欠だからです。ただそのフォロワーは、リーダーのいいなりになるロボットではなくて、物を考える人間として、自分の意見をしっかり持った「個」である必要があります。「自分とはこのような人間であり、こういうことがやりたい」と明確に言えるような「個」であることが求められています。そして互いに「個」を認め合うことで、両者の意見の違いをすり合わせる「対話」が生まれてきます。「個」をしっかりと持って、対話が出来人間になりましょう。

皆さんが、明日から歩む道は、暖かな光り輝く道ばかりではありません。皆さんが生きていく新しい時代には、今までにはなかったような試練が待ち受けているはずです。

明日の予測がつかない世界では、常に心を世界に開いてアンテナを張り、情報や知識を習得して自らを成長させようとする姿勢が必要です。向上心を持って最後まで努力して下さい。まだまだ未熟な君たちは謙虚な気持ちでひたむきに努力していかなければなりません。結果を得ることを焦らず、向き不向きより前向きの姿勢が大切です。

内村鑑三の「後世への最大遺物」に、こんな言葉があります。私たちが自信を持って後世に残す事が出来るものは何か。それは「勇ましく高尚な生涯である」地位や名誉は他人の評価である。潔く正々堂々とした人生をおくること。それは志と覚悟がありさえすれば

全ての人可以实现できる。後世に残すことができる最高の遺産である。と。

皆さんはこれからも多くの人に出会います。その方たちからその生き方・考え方を学び  
とって下さい。その中で、自分にとって有用なことを吸収し、自分の成長の糧にして欲しい  
と思います。何が有用なのかを判断する能力と物事の善悪を判断する力は身に就いてい  
ると思います。

保護者の皆様、中には至らぬ点もあったかと存じますが、ご来賓の皆様を含めまして、  
本校の教育に対して温かいご理解とお力添えをいただきましたことに、心よりお礼申し上げ  
ます。ありがとうございました。

卒業生の皆さん、君たちが私立高校で学ぶことが出来たのは、ご家族のご理解とご支援  
があったからです。今日手にした卒業証書は、友人やまわりの多くの方々の支えと思いや  
りがあって、得られたということに感謝しましょう。卒業式の終了は、保護者の方々への  
「お陰さまで卒業できました。ありがとうございました。」の言葉と心得ましょう。

自分が主役の人生劇場の高校編は今日で終わります。このドラマに共演できたお互いを  
これからも大切にしていってください。明日からは青春立志篇のスタートです。どんなシ  
ナリオにするかは皆さんの心ひとつです。どうか明るく希望に満ちた群像を描いて下さい。  
でも、もし、がんばって、がんばって、がんばって、それでも心が寒くなったら、どうぞ  
「心のふるさと」である母校に、温まりに来てください。

最後に、保護者の皆様と卒業生が健康で幸多かれと祈念し、旅立ちの日の式辞と致します。

平成 27 年 3 月 5 日

我孫子二階堂高等学校長 今井 正和